

## 『学術フォーラム「高齢者に優しいまちづくり:現場・自治体から学ぶ」』 オンライン参加

「エイジフレンドリーシティ (Age friendly cities and communities)」

これは、世界保健機関 (WHO) が 2010 年に立ち上げた高齢者に優しい地域づくりに取り  
組む自治体等の国際的なネットワークのことで、8つのトピックス「屋外スペースと建  
物」「交通機関」「住居」「社会参加」「尊敬と社会的包摂 (ソーシャルインクルージョ  
ン)」「市民参加と雇用」「コミュニケーションと情報」「地域社会の支援と保健サービス」  
が設定されています。2026年2月7日、これらのテーマに沿った事例発表と、専門家の  
の方々によるシンポジウムが開催されました。総合討論では「その取り組みができた理由」  
「不足しているもの」「他の自治体にも広げていくために必要なことは」などについて、  
ディスカッションされました。

神奈川県「未病産業研究会会員」の当法人もご案内があり、オンラインにて視聴させてい  
ただきました。

### 全体の感想

「限界集落」「高齢者比率が高い地域」そして「坂が多い」「駅から遠い、交通手段が厳し  
い」など発表された地域はそれぞれが課題山盛りの地域です。

「坂が多い！」なんてまさに横浜も同じです。

### シンポジウムで参考になった意見

#### ・リビングラボの経験から

『産官学民』と言われてますが、信頼関係は最初はない！と思ってスタートした方がよ  
い。あきらめずに小さいことから続けてみる。

役所は市民を「クレーマーかも？」と思ってる、市民は役所をお願いしても「放置されて  
る」と思ったり。また、かかわってくる企業は「何か別のアジェンダあるのでは？」と疑  
われる (笑)。という三すくみ状態。ココで諦めず、小さいことで実際やってみて信頼関  
係を気付いて積み重ねていくしかない。

#### ・他国他地域、世界から見ると

日本の仕組みは素晴らしいのだが、皆保険、自助共助関係、もっと誇っても満足してもい  
いのかも？日本人ネガティブすぎかも？いいところいろいろあるようです。

#### ・満足度について

ウエルフェア (福祉) は税金投入しやすいが、ウエルビーイング (満足度の高い生活) に  
ついてはどうか、ということがある。住民も行政も。そこがボトルネックか。

・住民の満足度について

20年前、高齢社会、シニアをマーケットとしたビジネスなど経団連から「静脈産業だよね」と言われ相手にされなかったが、現在は企業側、産業界も見方が変わってきていると思う。(鎌倉のリギングラボ、イトーキなどを巻き込んだ事例から)

・まとめ

「エイジフレンドリーシティ」

個人責任以外にも、特別なものを加えるのではなく、関係性を保持していく。

自治体の役割としては予算のことがあります、

企業が住民と連携し専門職の在り方、再考、専門サービスだけでなく、限界集落で共有すること、高齢者以外の世帯を巻き込むことが必要。

また、高齢社会と一口にいても「格差」の問題についての言及が少なかった。

福祉の枠外の方、中間層、中間世代などについても目を向けていきたい。

以下、参加してみて個人の感想。

今回も少し話に出ましたが「高齢者のモビリティの問題」。地方に住んでいるととても深刻です。まだ自分は大丈夫と思ってますが、日々迫ってくる問題。トヨタのウーブンシティについてなども知りたいと思いました。

また、細かいことで恐縮ですが

さまざまなシーンで無人レジなどIT化が進み高齢者がとまどうケースが増えており、これ、どうにかならないかな、と思います。

特に使いこなせるかどうか、という問題だけではなく、レジで後ろの人をまたせるのがプレッシャーなどがよく聞かれます。

そういう社会のソフト、人間の心の問題。

あと、

電池ボックスの「+-表示」が黒字に黒で書かれていて見えない！

電池の入れ替えだけなのに…など、些細な日常の課題についてみんなで考えるのいかがでしょう。

と思いました。なんか、卑近な話しになってしまったな～。たはは。